

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月12日

上場会社名 株式会社トランスジェニック

上場取引所 東

コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山村 研一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 福永 健司

TEL 03-5524-6152

四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	73	47.6	△107	—	△113	—	△104	—
21年3月期第1四半期	49	—	△171	—	△167	—	△174	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△955.12	—
21年3月期第1四半期	△1,595.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	2,356	2,049	84.5	18,261.10
21年3月期	2,234	2,114	93.8	19,211.75

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 1,991百万円 21年3月期 2,095百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期	277	105.9	△205	—	△204	—	△206	—	△1,888.85
連結累計期間	768	136.4	△373	—	△370	—	△375	—	△3,438.44
通期									

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	109,075株	21年3月期	109,075株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	14株	21年3月期	14株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	109,061株	21年3月期第1四半期	109,061株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した当期の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に与える不確定要因に関しての仮定を前提としており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等につきましては、3ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における当社グループの経営成績は、売上高73,400千円（前年同期49,713千円）、営業損失107,607千円（前年同期171,094千円）、経常損失113,638千円（前年同期167,882千円）、四半期純損失104,166千円（前年同期174,016千円）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 遺伝子破壊マウス事業

営業活動の活性化に重点を置き、積極的な販売促進活動を展開したことにより、受託事業が好調に推移しました。この結果、売上高は39,826千円（前年同期19,970千円）、営業利益は2,129千円（前年同期は営業損失27,860千円）となりました。

② 抗体事業

将来的な収益拡大に向けて受託サービスを抑制し新抗体製品の開発に注力しました。この結果、抗体製品販売は前年同期並に推移したものの、売上高は9,685千円（前年同期17,709千円）、営業損失は31,022千円（前年同期11,361千円）となりました。

③ 試薬販売事業

サイトカイン販売が堅調に推移し、また前年に締結したプロテインテック社との独占販売契約により研究用試薬等の製品ラインナップの拡充が図られた効果が受注拡大に反映しました。この結果、売上高22,125千円（前年同期11,001千円）、営業利益1,143千円（前年同期は営業損失8,973千円）となりました。

④ その他事業

積極的な販売促進活動により、海外バイオ企業の国内代理店業務等の認知度が増したことにより受注が拡大しました。この結果、売上高1,762千円（前年同期1,032千円）、営業利益297千円（前年同期は営業損失1,310千円）となりました。

知的財産戦略におきましては、平成21年6月、新規腫瘍がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許が国内で成立いたしました。

また、新規事業領域の拡大に向けて、株式会社果実堂をグループ会社化いたしました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末（平成21年6月30日）は、流動資産1,453,993千円（前連結会計年度末比59,246千円減少）、固定資産902,200千円（同180,741千円増加）、流動負債164,925千円（同50,503千円増加）、固定負債141,419千円（同136,068千円増加）、純資産合計2,049,848千円（同65,077千円減少）となり、総資産は2,356,194千円（同121,495千円増加）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純損失102,473千円（前年同期172,750千円）により、営業活動によるキャッシュ・フローは△103,395千円（前年同期△233,124千円）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

資金運用を目的とした信託受益権の取得による支出700,000千円、関係会社株式の取得による支出153,000千円などにより、投資活動によるキャッシュ・フローは△838,711千円（前年同期598,327千円）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金及び得られた資金はありません。

上記のキャッシュ・フローに、新規連結に伴う増加等141,185千円を加減した結果、当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ800,921千円減少し、577,379千円（前年同期1,861,846千円）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社は、当第1四半期連結会計期間において株式会社果実堂及び同社グループ会社を連結または持分法の適用の範囲に含めております。これに伴い、平成21年5月15日の決算発表時に公表した平成22年3月期（平成21年4月1日から平成22年3月31日）の連結業績予想を平成21年6月26日付で修正・公表しております。

当第1四半期における業績は、概ね当初の予定通り推移しており、現時点においては業績予想の変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

該当事項はありません。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第1四半期連結会計期間において、重要な営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これは、一定の管理部門経費が発生する一方で、研究開発成果である製品販売及びロイヤリティ収入等の収益化が遅延していること等によるものであります。当社は、当該重要事象を解消するため、役員報酬を始めとする管理部門人件費の大幅な削減、収益構造の再検討、研究開発課題の絞込みを行っており、速やかに業績の改善を実現させる所存であります。

また、食品事業を展開する株式会社果実堂のグループ会社化を契機に、当社のDNA・遺伝子解析技術を用いた新たな事業領域への参入を検討しております。

資金につきましては、当第1四半期連結会計期間末時点で、現金及び預金と有価証券の合計額は1,297百万円であることから、財務的支障はないものと考えております。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載は行っておりません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	597,379	178,361
受取手形及び売掛金	95,823	75,569
有価証券	700,000	1,199,938
商品及び製品	11,278	3,055
仕掛品	10,768	5,752
原材料及び貯蔵品	13,655	6,476
その他	25,516	44,260
貸倒引当金	△428	△175
流動資産合計	1,453,993	1,513,240
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	506,898	459,317
減価償却累計額	△135,397	△120,834
建物及び構築物(純額)	371,500	338,483
その他	380,981	324,436
減価償却累計額	△356,260	△324,436
その他(純額)	24,720	—
有形固定資産合計	396,220	338,483
無形固定資産		
のれん	414,785	187,563
無形固定資産合計	414,785	187,563
投資その他の資産		
その他	96,181	195,412
貸倒引当金	△4,986	—
投資その他の資産合計	91,194	195,412
固定資産合計	902,200	721,458
資産合計	2,356,194	2,234,699
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,810	7,648
短期借入金	10,000	—
1年内返済予定の長期借入金	36,856	—
未払金	61,334	42,924
未払法人税等	4,490	10,372
賞与引当金	2,740	—
受注損失引当金	1,263	498
その他	38,429	52,978
流動負債合計	164,925	114,421

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
固定負債		
長期借入金	126,460	—
長期リース資産減損勘定	—	5,351
その他	14,959	—
固定負債合計	141,419	5,351
負債合計	306,345	119,773
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,855,225	4,855,225
利益剰余金	△2,862,356	△2,758,189
自己株式	△1,782	△1,782
株主資本合計	1,991,086	2,095,253
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	487	—
評価・換算差額等合計	487	—
新株予約権	6,715	17,387
少数株主持分	51,558	2,285
純資産合計	2,049,848	2,114,926
負債純資産合計	2,356,194	2,234,699

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	49,713	73,400
売上原価	28,926	34,170
売上総利益	20,786	39,230
販売費及び一般管理費	191,881	146,837
営業損失(△)	△171,094	△107,607
営業外収益		
受取利息	3,396	1,365
保険解約返戻金	—	5,197
その他	190	140
営業外収益合計	3,586	6,703
営業外費用		
持分法による投資損失	374	12,732
その他	—	1
営業外費用合計	374	12,734
経常損失(△)	△167,882	△113,638
特別利益		
新株予約権戻入益	—	11,164
特別利益合計	—	11,164
特別損失		
固定資産売却損	2,658	—
投資有価証券評価損	2,208	—
特別損失合計	4,867	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△172,750	△102,473
法人税、住民税及び事業税	1,596	1,004
法人税等合計	1,596	1,004
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△330	688
四半期純損失(△)	△174,016	△104,166

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△172,750	△102,473
減価償却費	5,894	5,217
のれん償却額	2,744	2,744
株式報酬費用	—	493
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	△14
受取利息及び受取配当金	△3,396	△1,365
為替差損益(△は益)	△52	0
持分法による投資損益(△は益)	374	12,732
保険解約損益(△は益)	—	△5,197
固定資産売却損益(△は益)	2,658	—
投資有価証券評価損益(△は益)	2,208	—
新株予約権戻入益	—	△11,164
売上債権の増減額(△は増加)	14,910	6,342
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,910	△13,783
仕入債務の増減額(△は減少)	△846	△5,111
未払金の増減額(△は減少)	△59,966	△5,053
その他の資産の増減額(△は増加)	△5,824	20,102
その他の負債の増減額(△は減少)	△10,020	△3,882
小計	△229,975	△100,412
利息及び配当金の受取額	2,911	2,365
法人税等の支払額	△6,060	△5,349
営業活動によるキャッシュ・フロー	△233,124	△103,395
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	600,000	—
有価証券の取得による支出	—	△700,000
関係会社株式の取得による支出	—	△153,000
有形固定資産の取得による支出	△700	—
無形固定資産の取得による支出	△845	—
貸付金の回収による収入	344	266
保険積立金の解約による収入	—	14,022
その他	△472	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	598,327	△838,711
現金及び現金同等物に係る換算差額	52	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	365,255	△942,107
現金及び現金同等物の期首残高	1,496,591	1,378,300
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	141,185
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,861,846	577,379

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	遺伝子破壊 マウス事業 (千円)	抗体事業 (千円)	試薬販売 事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	19,970	17,709	11,001	1,032	49,713	—	49,713
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	19,970	17,709	11,001	1,032	49,713	—	49,713
営業損失 (△)	△27,860	△11,361	△8,973	△1,310	△49,505	△121,589	△171,094

当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	遺伝子破壊 マウス事業 (千円)	抗体事業 (千円)	試薬販売 事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	39,826	9,685	22,125	1,762	73,400	—	73,400
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	39,826	9,685	22,125	1,762	73,400	—	73,400
営業利益又は 営業損失 (△)	2,129	△31,022	1,143	297	△27,451	△80,155	△107,607

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分については、サービス及び製品の種類を考慮して分類しております。

2. 各事業に属する主要サービス及び製品の内容

事業区分	主要サービス及び製品
遺伝子破壊マウス事業	遺伝子破壊マウス作製及び当該マウスにかかる遺伝子機能情報等の提供
抗体事業	抗体の開発、製造及び販売
試薬販売事業	試薬の仕入、販売
その他事業	生殖工学技術研修等

3. 事業区分の方法の変更

前第1四半期連結累計期間

事業区分の変更については、サービス及び製品の種類を考慮して3区分としておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、従来「その他事業」に含めて表示しておりました試薬販売事業の全セグメントに占める割合が高くなったため、試薬販売事業をその他事業から分離することといたしました。

この結果、従来の方法に比較して当第1四半期連結累計期間の売上高は、試薬販売事業が11,001千円増加し、その他事業が11,001千円減少しております。また、営業損失は、試薬販売事業が8,973千円増加し、その他事業が8,973千円減少しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。